

MB&F M. A. D. ギャラリーが、ジェニファー・タウンリー氏の幾何学的デザインによるキネティックアート作品展を開催

「弦の響きには幾何学があり、天空の配置には音楽がある。」これはピタゴラスの言葉であるが、あたかもこの偉大な数学者が自ら、催眠術のように観る人を引き込むタウンリー氏のキネティックアート作品を紹介しているかのような表現だ。彼女の幾何学的な彫刻は歯車によって動き、もう一つの世界へと導かれる。そこでは芸術はただ見て楽しむだけのものではなく、体験するものでもある。

オランダ出身のタウンリー氏は、子供の頃から幾何学的な形状に魅了されてきた。こうした理由から、同じオランダ人で、おそらく世界で最も有名なグラフィックアーティストであったM. C. エッシャーの作品に興味を持つようになる。エッシャーの「不可能図形」的なスケッチと繰り返し模様刺激を受け、アートにおける幾何学的な美を探求しようと決意したのだ。

そして、幾何学に対して元々持っていた情熱にエンジニアリングや科学への興味が加わることで、機械とだまし絵の要素が半分ずつ混在したアート作品が生み出される。人の心を捉えて離さない、そして計り知れない魅力を放つ作品。その見事なまでに美しいアートの世界を実現しているのは、彼女のデザインの特徴である極めてシンプルなスタイルだ。

彼女の彫刻作品『Cubes』（立方体）は、一見すると同じ図形を敷き詰めたテッセレーションパターンのようなものであるが、菱形を少しずつずらして集合体にしたことにより、もっと別の、しかし同じくらい興味深い感覚を呼び起こす。すなわち、立方体の集合に見えることもあり、また菱形の集まりに見えることもあるという、交互に変化する錯覚にとらわれるのである。歯車伝動装置を備えた小型電気モーターにより、菱形の集合体が上下に動くと同時に前後に傾くのだが、全てが非常にゆっくりとした動きであるため、錯覚による3次元形状が強調される。そして彫刻に反射する光によって、これらの菱形の図形に交互に光が当たったり影ができることで、まるで正確なタイミングで繰り返される操り人形のダンスのような印象を与える。

円を描くような動きとかみ合った歯車はタウンリー氏の作品に頻繁に取り上げられるテーマであるらしく、『De Rode Draad』（赤い糸）というタイトルの彫刻にも回転歯車が登場する。赤い糸が際限なくその足跡をたどり続けるかのように動く作品である。赤い糸が取り付けられた一連の歯車がゆっくりと回転すると、鮮やかなカラーの糸が真っ白な背景に幾何学的な形状を描きながら静かに踊るように動き、その形がこの動く彫刻の様々な場所に現れては消えていく。

『Lift』（昇降）という作品の魅力は、優雅に弧を描くような機械エネルギーの流れの中で鎖歯車が細い金属チェーンに沿って上がり下がりすることで生まれる、バレエのような動きに集約される。この彫刻の中央に配された大きめの歯車が一定の速度で回転し、黒いチェーンを駆動させる。中央以外の小さめの歯車は、それぞれ

詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36.

大きさが違うために回転速度も異なり、真鍮製の分銅によって引き下ろされることでチェーンの張りが保たれる。この構造全体が意外性のある動きを呈して、観る人の目を引き付け、心を魅了するのだ。

『Squares』（正方形）も円運動をテーマにしているが、この作品では彫刻を動かす歯車の運動がそのテーマを表している。間隔が広めの木製の格子が幾何学的な形状の混成体を生み出し、連動する歯車の回転につれて、それらの形がゆっくりと現れては消え、そしてまた現れる。この回転する歯車が、何とはなしに機械式時計のムーブメントを思い起こさせる。

静かに動くこれらの彫刻がもたらす穏やかな感覚は、芸術の分野では珍しい特徴といえよう。タウンリー氏のキネティックアートはどのようなアングルや距離から見ても魅力的で示唆に富んでおり、時計製造に関心を持つ人々にとっては特に興味深い作品ではないだろうか。

略歴

オランダ人アーティスト、ジェニファー・タウンリー氏は2008年にデン・ハーグ王立芸術アカデミーで芸術学の学位を取得。その後、独立したアーティストとして活動、ゆっくりとした動きの機械仕掛け彫刻の制作を専門とする。

彼女の動く彫刻は、細部に至るまで細心の注意を払って制作されており、反復運動とパターンの変化によって、作品を鑑賞する人自身の思考パターンをさりげなく乱すようにデザインされている。作品はパターンが絶えず変化する形状が特徴で、それは常に変形し続けるのだが、その静謐をたたえた動きは特筆に値する。

タウンリー氏のアートは科学に対する強い興味に端を発しており、物理学やエンジニアリング、数学を重視し、これらを取り入れて作品を制作。また、M. C. エッシャーが描いた幾何学模様や数学的趣向のスケッチからもインスピレーションを得ている。機械によって単純な円運動が複雑で非直線的かつ不規則なパターンに変換される様子に惹かれた彼女は、頑強で一見すると不滅にすら見える機械に強い魅力を感じている。

こうした機械仕掛けに対する情熱に加えて、我々が周囲の世界をどのように認知しているのか、という点にも強い関心を抱いている。目の錯覚は、脳がどのようにして紛らわしい視覚情報を既知の精神的枠組みに適合させようとするのかを示す良い例である。無秩序な状態が注意力を乱すのに対し、一般に秩序は心に安らぎを与える。タウンリー氏は無秩序と秩序の瞬間が交互に繰り返される反復運動を伴った彫刻の制作を好んでいるが、このような運動が観る人に緊張感と安心感を交互に感じさせ、催眠効果に似た作用をもたらすのだ。

詳細お問い合わせ:

Juliette Duru, MB&F SA, Rue Verdaine 11, CH-1204 Genève, Switzerland

メール: jd@mbandf.com 電話: +41 22 508 10 36.